

中国語の反復疑問文と“也”の共起に関する新考察

山口 直人

A Revised View on Co-occurrence of Chinese A-not-A Questions and “ye(也)”

YAMAGUCHI Naoto

内容提要

“V(O)不?”和“V(O)了没有?”式正反问句跟“V(O)不 V(O)?”式正反问句不同,只有前者才能跟副词“也”共现。到底有什么原因引起这个区别呢?

过去有三位学者分别做过有关正反问句的研究,都对上述问题的解决很有参考价值。这三位学者的研究如下:

- (1)Huang1991 对“V(O)不 V(O)?”式正反问句的生成所做的研究。
- (2)Ernst1994 对“V(O)不 V(O)?”式正反问句和副词的共现现象所做的假设。
- (3)Sybesma1999 对“V(O)不?”和“V(O)了没有?”式正反问句的生成所做的解释。

本稿以这三位学者的研究成果为基础,对上述问题提出了一个新的解释。

目次

0. はじめに
1. 従来の考え方とそれに対する Huang1991 の疑問
 1. 1 Huang1991 の指摘
 1. 2 その他の疑問

2. 反復疑問文の2分類

2. 1 分割の可否

2. 2 語彙の完全性と前置詞残留

3. A不AB?型とAB不A?型の生成

3. 1 AB不A?型の生成

3. 2 A不AB?型の生成

4. 反復疑問文と副詞の共起について

5. 「V(O)不? / V(O)了没有?」型反復疑問文と“也”との共起について

6. おわりに

0. はじめに

よく知られているように、副詞(的修飾語)の多くは「V(O)不V(O)?」型反復疑問文(正反疑問文)と共起することができない。^{注1)}

(1) *他也来不来? 〈彼も来ますか?〉のつもり

(2) *他静静的跳舞不跳舞? 〈彼は静かに踊りますか?〉のつもり(以上、山口 1996 p.94-95)

(3) *这里的条件很好不好? 〈ここの条件はとても良いですか?〉のつもり(守屋 1995 p. 221)

こうした副詞(的修飾語)は“吗”疑問文とは問題なく共起できる。

(4) 他也来吗? 〈彼も来ますか?〉

(5) 他静静的跳舞吗? 〈彼は静かに踊りますか?〉

(6) 这里的条件很好吗? 〈ここの条件はとても良いですか?〉

また、反復疑問文でも、次のような「V(O)不? / V(O)了没有?」型反復疑問文であれば、こうした副詞との共起が許される。(山口 1996 p.94,101)

(7) 他们也去不? 〈彼らも行きますか?〉

(8) 他们也去了没有? 〈彼らも行きましたか?〉

こうした言語事実を説明するものとして、筆者は拙稿において以下の仮説を提案した。(山口 1996 p.96)

(9) 反復疑問文は選択疑問文の特殊な形式である。聞き手は反復疑問文を耳にすると、脳内でその文の階層構造に従い、対応する選択疑問文に書き替えて意味解釈する。

そして、拙稿では副詞の多くは「V(O)不 V(O)?」型反復疑問文と共起すると、意味解釈において論理矛盾が起きるので非文となるが、「V(O)不? / V(O)了没有?」型反復疑問文では、こうした副詞と共起しても、論理矛盾は起きないので許容される。という説明をおこなった。具体的に言えば、例文(1)は次のような選択疑問文に書き換えられて解釈されると考える。(〔 〕カッコ内は「とりたて詞」の“也=も”を解釈するに当たっての前提事項)

(1) 他也来还是他也不来? (〔誰かが来る〕彼もその人同様に来ますか、それとも〔誰かが来ない〕彼もその人同様に来ませんか?)

すると、この選択疑問文は前提が正反対の2つの命題から二者択一を強いるという、聞き手にとっては選択不可能な疑問文になってしまうので非文になる。という具合に拙稿では説明した。

管見によれば、日本の中国語学界においては、筆者のこの考え方に対してこれまで明らかな反論はなかったと思われる。ところが、筆者がその後読んだ論文のうち、Huang1991は生成文法の観点から、選択疑問文と反復疑問文は全く同じ疑問文とは言えず、反復疑問文はむしろ疑問詞疑問文に近いと考えていることを知った。また、Ernst1994はHuang1991の観点から、反復疑問文と副詞の共起の問題に対して、拙稿よりも簡潔で説明力の高い仮説を提案している。

本稿はこうした両氏の考え方を簡単に紹介した上で、両氏が扱っていない「V(O)不? / V(O)了没有?」型反復疑問文が、なぜ反復疑問文でありながら例外的に副詞の“也”との共起を許すのかという問題について、新しい観点から考察を加えたい。

1. 従来の考え方とそれに対する Huang1991 の疑問

中国語文法では伝統的に反復疑問文は選択疑問文から省略によって作られると考えられてきた。たとえば次の選択疑問文(10)を基本にして、同一の語句を省略することによって、反復疑問文の(11)(12)(13)が作られると考えられてきた。(山口 1996 p.96 の先行研究参照)

- (10) 你带雨衣还是不带雨衣? 〈君はレインコートを持っていますか、それとも持っていませんか?〉
- (11) 你带雨衣 不带雨衣? 〈君はレインコートを持っていますか? 以下同じ〉
- (12) 你带 不带雨衣?
- (13) 你带雨衣 不带 ?

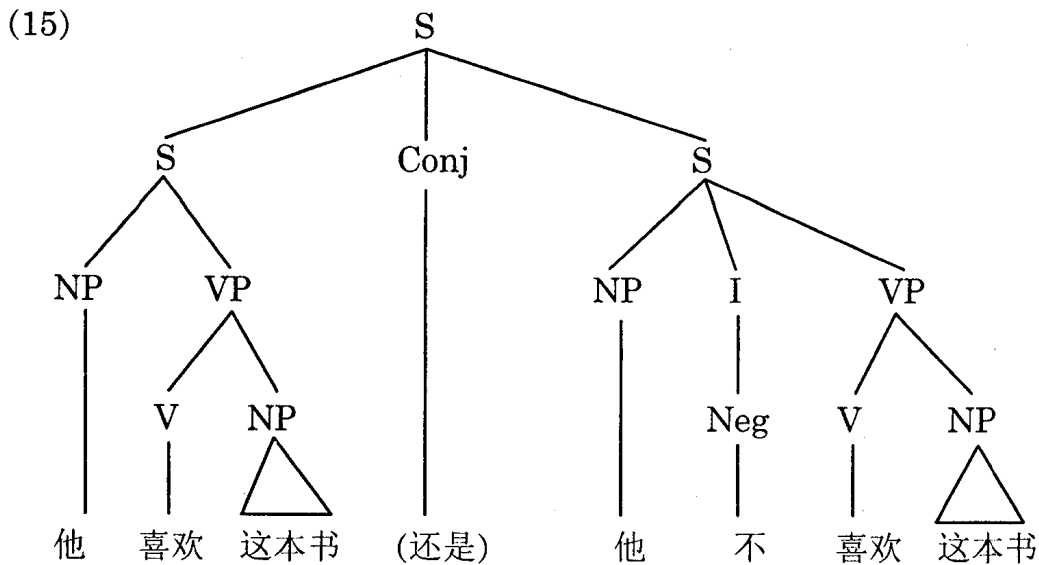
1. 1 Huang1991 の指摘

Huang1991 は上でみた「反復疑問文は対応する選択疑問文から等位構造削除 (Coordinate Deletion) によって作られる」とする伝統的な考え方は、Ross1967 の「方向性制約 (Directionality Constraint)」という一般性の高い規則で、一部を除いて説明が可能であるとしている。(p.307-308 あとでみる

(16) e は例外である)

(14) 方向性制約

等位構造における同一指示の語句が、樹形図において左枝分かれの方向にある場合は、削除は必ず順向の削除となる。逆に等位構造における同一指示の語句が、樹形図において右枝分かれの方向にある場合は、削除は必ず逆向の削除となる。



- (16) a 他喜欢这本书(还是)他不喜欢这本书? 〈彼はこの本が好きですか、(それとも、)彼はこの本が好きではありませんか?〉
 b 他喜欢这本书 不喜欢这本书? 〈彼はこの本が好きですか、この本が好きではありませんか?〉
 c 他喜欢 不喜欢这本书? 〈彼はこの本が好きですか?〉
 d 他喜 不喜欢这本书? 〈以下同上〉
 e 他喜欢这本书 不喜欢 ?

ここで“他”は左枝分かれの方向にあるので、(16)aから順向削除によって(16)bが作られる。一方、“这本书”は右枝分かれの方向にあるので、(16)bから逆向削除によって(16)cが作られる。同様に“喜欢”の“欢”が逆向削除によって省かれて、(16)cから(16)dが作られる。このように(16)aから(16)b、(16)c、(16)dが作られる理由が、(14)方向性制約によって、言語の一般的傾向として導かれる。

しかし、Huang1991は“这本书”は右枝分かれの方向にあるのだから、(16)bから順向削除によって(16)eが作られることはありえないので、(16)eは(14)方向性制約では説明がつかない例外であることを指摘している。

1. 2 その他の疑問

Huang1991は反復疑問文の(16)eが選択疑問文(16)aから等位構造削除に

よって生成されることがありえないことを指摘する以外に、反復疑問文と選択疑問文の違いを示すもうひとつの重要な言語現象を指摘している。それは、反復疑問文にみられる「島の条件(Island Condition)」が、選択疑問文にはみられないという指摘である。(p.313-314)

一般に「文主語」や「関係節」はいわゆる「島(Island)」を形成し、疑問要素が「島」の外に疑問の意味を出すことができないことが知られている。次の(17)(18)は「文主語島」の例、(19)(20)は「関係節島」の例である。反復疑問文の(18)(20)が意味の通った疑問文としては解釈できず、非文となるのに対して、選択疑問文の(17)(19)が疑問文として解釈可能なことから、反復疑問文は選択疑問文とは異なるタイプの疑問文であることを Huang1991 は主張した。

(17) a[我去美国还是不去美国]比较好? 〈私はアメリカに行くのとアメリカに行かないのとどちらがいいだろうか?〉 以下同じ

b[我去美国还是不去] 比较好?

c[我去 还是不去美国] 比较好?

(18) *a[我去美国不去美国] 比较好? 〈私はアメリカに行くのとアメリカに行かないのとどちらがいいだろうか?〉 のつもり。以下同じ

*b[我去美国不去] 比较好?

*c[我去 不去美国] 比较好?

(19) a 你喜欢[认识你还是不认识你]的人? 〈あなたに面識のある人とあなたに面識のない人とどちらが好きですか?〉 以下同じ

b 你喜欢[认识 还是不认识你]的人?

c 你喜欢[认识你还是不认识]的人?

(20) *a 你喜欢[认识你不认识你]的人? 〈あなたに面識のある人とあなたに面識のない人とどちらが好きですか?〉 のつもり。以下同じ

*b 你喜欢[认识 不认识你]的人?

*c 你喜欢[认 不认识你]的人?

*d 你喜欢[认识你不认识]的人?

本章でみた Huang1991 の主張は説得力のあるものであるから、反復疑問文

と副詞の共起の可否を説明するのに、反復疑問文が選択疑問文と同一であることを前提とした山口 1996 の考え方は、再考を迫られることになる。

2. 反復疑問文の 2 分類

これまでの説明から分かるように、Huang1991 は“还是”を用いた「選択疑問文」と“还是”を用いない「反復疑問文」を分けて考えることを主張している。つまり、前章で挙げた例のうち(16)a と(16)b~e を大きく 2 つに分けて考えるということである。1. 1 節で指摘したように、Huang1991 はさらに(16)b~e の反復疑問文のうち(16)e は Ross1967 の「方向性制約」の例外であるため、(16)e はそれ以外の反復疑問文(16)b~d と分けて考えるべきだと主張している。

Huang1991 のこの考え方を図示すると以下のようなになる。

- (21) 1. 選択疑問文：A 还是 B? = (16)a (B は不 A のこともある)
2. 反復疑問文：
2. 1 A 不 AB? 型 = (16)b~d
2. 2 AB 不 A? 型 = (16)e

反復疑問文をさらに A 不 AB? 型と AB 不 A? 型に分ける理由として、Huang1991 は先に(16)e でみた、AB 不 A? 型が Ross1967 の(14)「方向性制約」の例外であるということを挙げる以外に、さらに以下の 2 点を挙げている。
(p.319-321)

2. 1 分割の可否

AB 不 A? 型は“不”の前で文を区切り、2 つの独立した“吗”疑問文として分割できるのに対し、A 不 AB? 型はそうした分割ができないこと。

(22) AB 不 A? 型：你喜欢他/不喜欢? ⇒ 你喜欢他吗?不喜欢吗?〈君は彼が好きですか?好きではありませんか?〉

(23) A 不 AB? 型：你喜欢/不喜欢他? ⇒ *你喜欢吗?不喜欢他吗? = 〈君は

好きですか？彼が好きではありませんか？〉注2)

2. 2 語彙の完全性と前置詞残留

AB 不 A? 型には語彙の完全性(Lexical Integrity)注3) がみられ、語彙レベルで統語規則が適用されている。次の例文(24)が非文なのは文末の“不喜”が語彙レベルよりもさらに小さな形態素レベルの否定になっていることによる。また AB 不 A? 型では前置詞残留(Preposition Stranding)を許さない。例文(25)が非文なのは、文末の“不从”の後に前置詞の目的語が無いからである。一方、A 不 AB? 型には語彙の完全性がみられず、例文(26)のように形態素レベルの反復である“喜不喜欢”という言い方が許される。また A 不 AB? 型では前置詞残留を許し、例文(27)の“从不从”の前の“从”には目的語が無いにもかかわらず、許容される。

(24) *他喜欢这本书不喜? 〈君はこの本が好きですか〉 のつもり

(25) *你从这里出去不从? 〈君はここから出て行きますか?〉 のつもり

(26) 你喜不喜欢这本书? 〈君はこの本が好きですか〉

(27) 你从不从这里出去? 〈君はここから出て行きますか?〉

このようにみえてくると、Huang1991 の(21)にみられる分類法は、説得力のある主張といえる。

3. A 不 AB? 型と AB 不 A? 型の生成

Huang1991 は反復疑問文が選択疑問文から等位構造削除を経て生成されるという考え方に疑問を示している。では、Huang1991 は反復疑問文の生成をどのように考えているのだろうか？ここでは先に反復疑問文の中では例外的な AB 不 A? 型からみる。

3. 1 AB 不 A? 型の生成

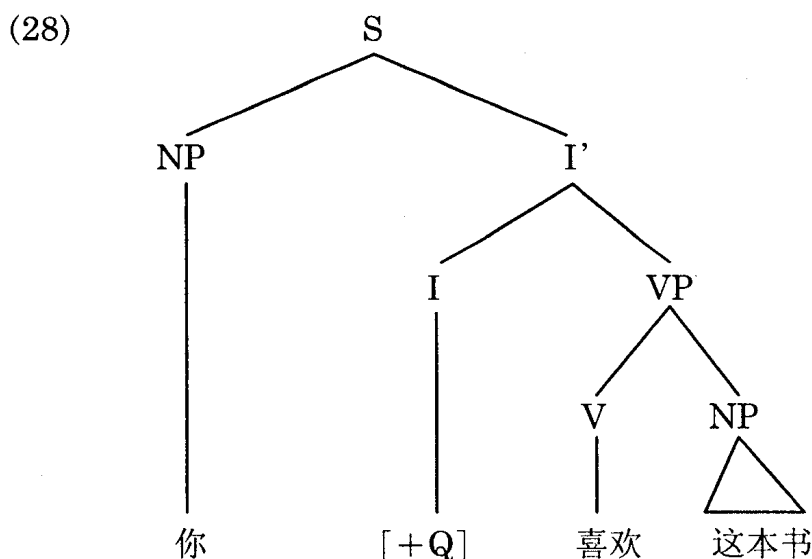
Huang1991 は AB 不 A? 型は「AB 不 AB?」という形が基底生成(Base Generate)され、それが照応省略(Anaphoric Ellipsis)によって、後の B が省

略されて作られると考えている。(p.317-319) 若干アドホックな考え方であることは否めないが、AB 不 A?型は Ross1967 の(14)方向性制約では説明がつかない現象であるので、仕方のない分析かもしれない。

3. 2 A 不 AB?型

(16)b ~ (16)d の A 不 AB?型は以下の基底構造を持つという。

(p.316-317)



Huang1991によれば、(28)に代表される基底構造は反復疑問文だけでなく、疑問詞疑問文をも扱うことができる構造であるという。もし名詞句が[+Q]素性を持てば、それは(29)のような疑問詞として具現化し、もし副詞句が[+Q]素性を持てば、それは(30)のような疑問詞として具現化するとしている。

(29) 谁来了? 〈誰が来ましたか?〉

(30) 张三为什么没有来? 〈張三はなぜ来なかったのか?〉

そして、特に屈折範疇 I(nflection)が[+Q]素性を持ったとき、それは V(O)を反復させて真ん中に否定辞を挿入するという形で具現化し、それがすなわち A 不 AB?型反復疑問文であると主張している。

このように反復疑問文と疑問詞疑問文を同一のタイプとして捉える Huang1991 の考え方は、従来の伝統的な中国語文法からみれば、実に突飛な印象を受けるが、Huang1991 は以下の 2 点を挙げて、自説が正しいことの証明としている。

- (i) 疑問詞疑問文は選択の意味的な外延が広いとはいえ、二者択一の反復疑問文と同様に、答えの可能性のある候補から最適なものを一つ選ぶタイプの疑問文であること。
- (ii) 疑問詞疑問文と反復疑問文は、共に文末に“呢”を置くことができる点で共通しており、共に“吗”を置くことができない点で、“吗”疑問文と異なること。

4. 反復疑問文と副詞の共起について

Huang1991 は冒頭で述べた反復疑問文と副詞の共起の問題については、特に扱っていない。この問題については Huang1991 の分析にもとづく Ernst1994 をみる必要がある。

Ernst1994 は Huang1991 の(21)と(28)の考え方にもとづき、以下の「表層同一性原則(Isomorphic Principle)」によって反復疑問文と副詞の共起の問題を、一般性の高い方法で解決している。

(31) 表層同一性原則 (p.250) 注4)

表層文における作用域(スコープ)関係は、LF(Logic Form : 論理形式)での意味解釈においても保持される。

=表層文において、もし α が β よりも広いスコープを取れば、LF での解釈においても α は β よりも広いスコープを取る。

反復疑問文中に副詞がある場合には、以下の2つの出現の可能性がある。

(32) . . . Adv . . . [+Q] . . . ?

(33) . . . [+Q] . . . Adv . . . ?

一般に中国語においては、より左側に出現する語句の方が、より広いスコープを取る傾向がある(ただし例外もある。次の5章でみる例がそうである)。よって、Ernst1994 の考え方によれば、(32)(33)の Adv と[+Q]のスコープ関係は、(31)表層同一性原則により、表層文、LF 共に次のようになる。

(32)' 表層文 : Adv > [+Q] \Rightarrow LF : Adv > [+Q]

(33)' 表層文 : Adv<[+Q] ⇒ LF : Adv<[+Q]

Ernst1994 によれば、副詞が LF において Adv>[+Q] というスコープ関係を持つと、「意味的におかしい(semantically anomalous)」解釈となるので許されないとしている。(p.252-253)

次にみる事実、Ernst1994 の予測に沿った結果となっている。(p.243-244)

(34) *他一定去不去? 〈彼は必ず行きますか?〉 のつもり

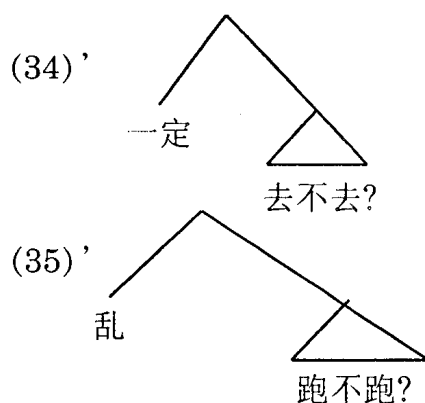
(35) *他乱跑不跑? 〈彼はめちゃくちゃに走り回りますか?〉 のつもり

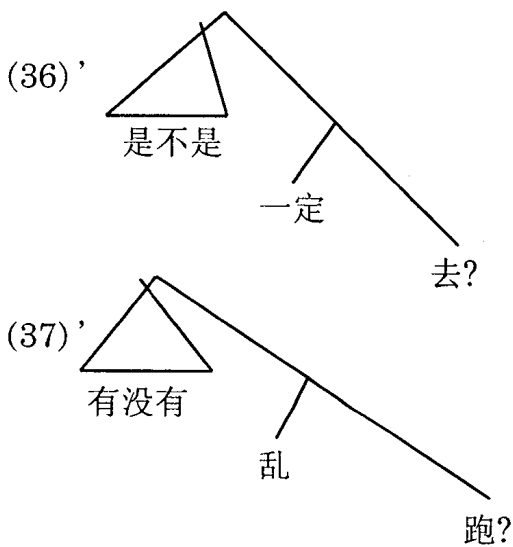
(36) 他是不是一定去? 〈彼は必ず行くのですか?〉

(37) 他有没有乱跑? 〈彼はめちゃくちゃに走り回ったのですか?〉

つまり、(34)(35)は Adv>[+Q] というスコープであり、「意味的におかしい」ので非文となる。一方、(36)(37)は Adv<[+Q] というスコープであり、意味的に問題のない解釈が得られるので許容されるというわけである。

Ernst1994 は「Adv>[+Q] というスコープのときは意味的におかしい解釈になる」と言っているが、「意味的におかしい」というのが具体的にどういうことなのかははっきりとは述べていない。しかし、筆者が考えるに、Ernst の考え方は拙稿の仮説(9)と実質的に同じものであるように思われる。つまり、拙稿の考え方に従えば、(34)~(37)の c 統御関係は、それぞれ(34)' ~ (37)' となる。この(34)' ~ (37)' をその c 統御関係にもとづいて、それに対応する選択疑問文に書き替えれば、それぞれ(34)'' ~ (37)'' となる。





(34)'' *一定去(还是)一定不去? 〈必ず行きますか(それとも)必ず行きませんか?〉

(35)'' *乱跑(还是)乱不跑? 〈めちゃくちゃに走り回りますか(それとも)めちゃくちゃに走り回りませんか?〉

(36)'' 是一定去(还是)不是一定去? 〈必ず行くのですか(それとも)必ず行くというわけではないのですか?〉

(37)'' 有乱跑(还是)没有乱跑? 〈めちゃくちゃに走り回ったのですか(それとも)めちゃくちゃに走り回ったというわけではないのですか?〉

拙稿の仮説(9)の考え方に従えば、非文となる(34)'' (35)'' を意味解釈する際には、“还是”後半の否定文において副詞が否定よりも広いスコープを取る。そのため、その否定文は“还是”前半の肯定文のペアとしては意味的に不適格なものとなる。よって、“还是”の前後の肯定文と否定文が表す2つの命題からどちらか一つを選択する場合に、適格な選択のペアとはなりえず、論理矛盾を生むので非文になると拙稿では考えた。一方、適格文である(36)'' (37)'' においては、“还是”後半の否定文は否定が副詞よりも広いスコープを取る。よって、肯定文のペアとして意味的に適格であり、“还是”の前後の2つの命題からどちらか一つを選択する場合に、何ら論理矛盾が生じないので適格文になると拙稿では考えた。

Ernst1994 が言っている「Adv>[+Q] というスコープのときは意味的にお

かしい解釈になる」ということの意味は、結局拙稿が主張することと大差はないと思われる。しかし、Ernst1994の(31)表層同一性原則にもとづく分析の方が、拙稿よりも、一層簡潔で高い説明力を持った分析であることは疑いない。

5. 「V(O)不? / V(O)了没有?」型反復疑問文と“也”との共起について

冒頭の例文(7)(8)でみたように、「V(O)不? / V(O)了没有?」型反復疑問文は、反復疑問文でありながら、副詞“也”との共起を許す。(以下、再録)

(7) 他们也去不? 〈彼らも行きますか?〉

(8) 他们也去了没有? 〈彼らも行きましたか?〉

注意すべきは、「V(O)不? / V(O)了没有?」型反復疑問文は、否定辞の後の動詞(句)が省略されて生成されるわけではないということである。それは下の(7)'が非文であることから明らかである。

(7)' *他们也去不去? 〈彼らも行きますか?〉のつもり

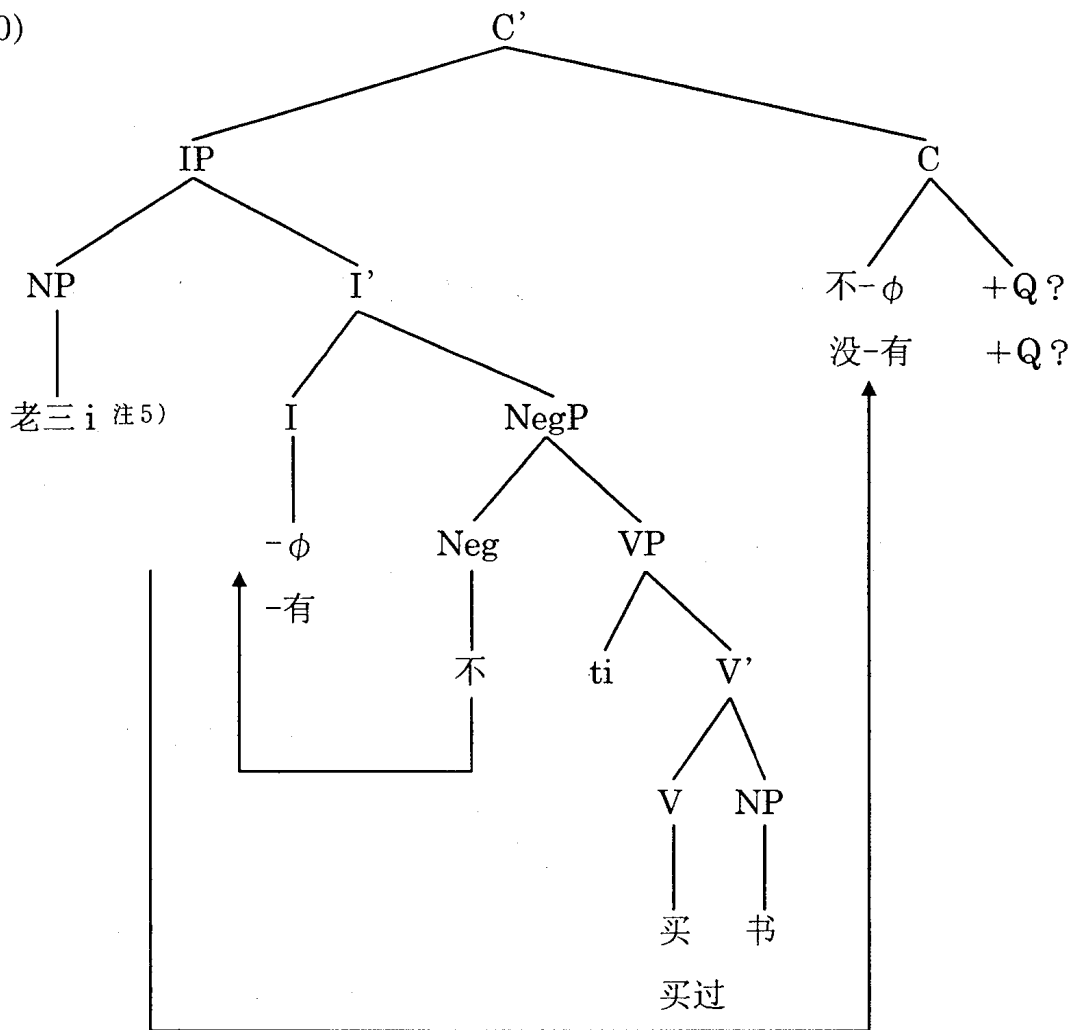
非文の(7)'の文末の動詞“去”を省略することによって、適格文である(7)が生成されるとは考えられない。では、「V(O)不? / V(O)了没有?」型反復疑問文はいかにして生成されるのだろうか?これについてはSybesma1999に興味深い分析がある。

Sybesma1999は本稿のいう「V(O)不? / V(O)了没有?」型反復疑問文をNegative Particle Questionと呼んでいる。文字通り否定辞が疑問要素として機能している疑問文ということである。Sybesma1999はNegative Particle Questionが時制辞I (inflection)の違いに応じて否定辞が異なることに注目し、このタイプの疑問文は、まず否定辞NegがIに主要部移動(head movement)し、その後「Neg+I」の連続がさらに機能語C (complementizer)へ主要部移動することによって形成されると主張している。(p.289-293)

(38) 老三买书不? 〈老三は本を買いますか?〉

(39) 老三买过书没有? 〈老三は本を買ったことがありますか?〉

(40)



(38) (39)の樹形図が(40)である。ここでIが現在形の場合は-φ、完了形や経験相の場合は-有が対応する。NegはIへ主要部移動するが、Iが現在形-φであれば“不-φ”として具現し、Iが完了形や経験相であれば“没-有”として具現する。そして、この「Neg+I」は最終的に文末のCの位置に主要部移動し、いわゆる Negative Particle Question、本稿の言う「V(O)不? / V(O)了没有?」型反復疑問文となる。

図(40)で重要なことは、CがIPを「c統御」することによって、CがIP全体に影響を与えうるということである。もし Sybesma1999 が主張するように、「Neg+I」がCの位置に主要部移動して「V(O)不? / V(O)了没有?」型反復疑問文が形成されるとすれば、表層文において疑問要素の[+Q]はIP内に存在する副詞 Adv よりも広いスコープを取ることになる。そうなれば前章でみた

Ernst1994 の(31)表層同一性原則により、LF での意味解釈においても、疑問要素の[+Q]は副詞 Adv よりも広いスコープを取りうるので、「V(O)不? / V(O)了没有?」型反復疑問文が“也”と共起できる理由が自然に導かれる。

つまり、前章で述べたように、中国語では一般により左側に出現する語句の方がより広いスコープを取る傾向があるが、この C の位置は例外であり、それに先行するすべての構成素を c 統御する優位な位置にある。Sybesma1999 が主張するように、「V(O)不? / V(O)了没有?」型反復疑問文は Neg が I を経て C の位置まで上昇することによって生成されると考えれば、「V(O)不? / V(O)了没有?」型反復疑問文が反復疑問文でありながら“也”と共起可能である理由が、Ernst1994 の(31)表層同一性原則に矛盾することなく説明できる。

6. おわりに

本稿では反復疑問文と“也”およびその他の副詞(的修飾語)にみられる共起の可否について論じた拙稿の仮説よりも、Huang1991 の(28)の考え方にもとづいた Ernst1999 の(31)「表層同一性原則」の方がすぐれていることを認めた。

その上で、Sybesma1999 の Negative Particle Question の考え方を採用すれば、反復疑問文にあっては一見例外と思える「V(O)不? / V(O)了没有?」型反復疑問文と“也”が共起可能な理由についても、Huang1991、Ernst1994 の理論的枠組みで矛盾なく説明できることを証明した。 (2007. 9.24. 11.5)

注

- 1) 例外もある。たとえば、“还”は反復疑問文と共起することが知られており、“到底、究竟”のように反復疑問文とは共起できるが、逆に“吗”疑問文とは共起できないものもある。ただし、これらはあくまで少数である。山口 1996 を参照されたい。
- 2) 例文(23)は対応する日訳も不自然な日本語であるように思われる。
- 3) Lexical Integrity を「語彙の完全性」と訳すのが妥当かどうか自信がない。あるいはもっと適切な訳があるかもしれない。
- 4) Isomorphic Principle を「表層同一性原則」と訳すのが妥当かどうか自信がない。この原則は初出の Huang1982 では The General Condition on Scope Interpretation と呼ばれていたもので、片岡 2006 p.72 では Scope Rigidity Principle と呼ばれ、「作用域関係不変の原則」と訳してある。この訳が一番分かりやすいと思う。
- 5) 本稿ではいわゆる「動詞句内主語仮説」の立場から、表層の主語名詞(句)は、深層では VPSpec の位置に生成されることを想定している。

主要参考文献

- Ernst, Thomas 1994 「Conditions on Chinese A-not-A Questions」 『 Journal of East Asian Linguistics』 Vol.3 No.3 November p.241-264 Kluwer Academic Publishers
- Huang, C.-T. James 1982 『Logical Relations in Chinese and the Theory of Grammar』 PhD dissertation MIT
- 1991 「Modularity and Chinese A-not-A Questions」 『Interdisciplinary Approaches to Language Essays in Honor of S.-Y. Kuroda』 p.305-332 Kluwer Academic Publishers
- 片岡喜代子 2006 『日本語否定文の構造—かき混ぜ文と否定呼応表現—』 くろしお出版
- 守屋宏則 1995 『やさしく くわしい 中国語文法の基礎』 東方書店
- Ross, John R 1967 『Constraints on Variables in Syntax』 PhD dissertation MIT
- Sybesma, Rint 1999 「Overt Wh-Movement in Chinese and the Structure of CP」 『第五屆漢語語言學 國際研討會論文選集』 p.279-299 文鶴出版有限公司
- 山口直人 1996 「反復疑問文と副詞の共起に関する一考察」 『中国語学』 243号 p.94-103